

資料1 「いのちの泉に」 (Come, Thou Fount of Every Blessing) 略解

作成 2023-5-13 岡本雅幸

■1. 概要

この讃美歌は、福音の光を当てて解釈したサムエル記上 7 章 1 ～ 13 節をバックボーンとし、「救いは、いのちの泉なる主イエスに拠り頼む以外にない」との燃え立つ信仰を歌っています。

歌詞 2 節の「エベネゼル」は、預言者サムエルが《これまで主は私たちを助けてくださった》ことの記念碑として建てた石の名の英語音訳です。(新改訳 2017 ではヘブライ語の音訳「エベン・エゼル」になってます。)

ところで、この讃美歌には様々な版があり、エベネゼルに関する歌詞が削除され“骨抜き”にされたものが日本にも英語圏にもあります。

■2. 作詞者 ロバート・ロビンソン (1735-1790)

ロバート・ロビンソンは、1735 年英国ノーフォークで生まれ、8 歳の時に父親が亡くなりました。14 歳 (1749 年) の時、理髪業を学ぶためにロンドンに出ましたが、その後ロンドンで悪名高い不良グループの仲間になって放蕩生活を送りました。

1752 年、彼が 17 歳の時のことです。当時有名な伝道者ジョージ・ホワイトフィールド (George Whitefield) の伝道集会に出たのです。その目的は、“哀れな迷えるメソジストの信徒たち”をあざ笑うためでした。しかし、マタイ 3:7 をテキストとした「来るべき怒り」との説教を聞いた彼はキリストに捕らえられ、やがてキリストを自分の救い主として受け入れました。

この「いのちのいずみに」は、ロビンソンが 23 歳で伝道者としての生活をスタートした 1758 年に作詞されました。

彼は最初メソジスト派に属し、その後 1759 年 1 月にケンブリッジのバプテスト教会に移り、最初は講師として、1764 年からは牧師として活躍しました。

正規の教育を受けたことが無いロビンソンにとり、優秀な学生や学者たちを聴衆に迎えて説教することは冒険であり不安だったことでしょう。また、同姓同名のユニテリアンと混同されたり支持したとの誹謗中傷を受けたりもしましたが、そこで最後まで使命を全うしました。

1790 年ロビンソンは、訪問先である、酸素を発見した化学者ジョセフ・プリーストリー宅で安らかに天に召されました。

■3. 作曲者 ジョン・ワイエス (John Wyeth 、 1770 ～ 1858)

<http://godarea.net/oumc/praise/sk/273.html>

彼は、マサチューセッツ州ケンブリッジに生まれ、印刷工であり、素人音楽家でした。この讃美歌が、最初に発表されたのは、1813年に発行された「ワイエス聖歌集」の中です。

以上